MPU6050+Madgwich4 のプログラム

2022.06.12 M. shimojo

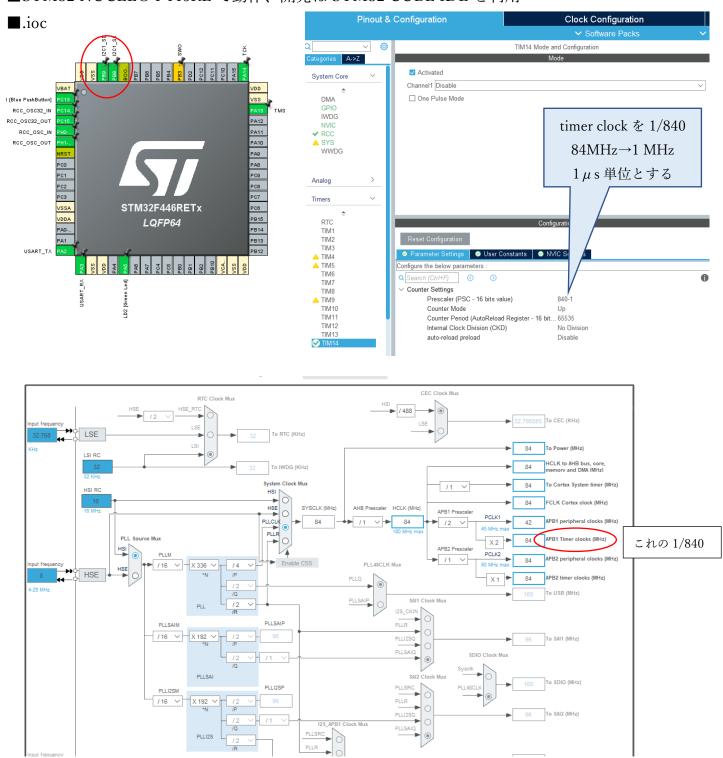
MPU6050 による姿勢の検出を行うプログラムメモです。少しでも皆様の参考になれば幸いです。

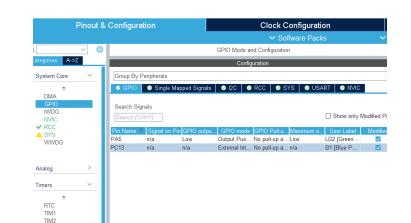
- STM32 NUCLEO F446RE を用いて、MPU6050 から加速度と角速度の値を検出する。
- 検出データは TeraTerm を使いデスクトップ PC へ転送する。
- 描画プログラムは、Processing を用いた。
- 加速度と角速度から姿勢の検出には Madgwick Filter を用いた。
- STM32 NUCLEO F446RE のプログラム開発には、STM32CubeIDE を利用した。
- MPU6050 の制御プログラムは数多くある。ただし、STM32 での実装は多くない。簡単に利用するなら Arduino 方式を用いた方が簡便で良い。
 - ► 私はジャンクボックスの CPU から速度の速いものを選び出した結果 F446RE となった。 結果として、STM32CubeIDE を利用したことで、Arduino 方式より細かな制御ができる ので良かった。(Arduino は隔靴掻痒←個人の感想)
- 以下に既存のプログラムから改変した点を記す。
- ✓ MPU6050 の姿勢の検出(サンプリング) 周期の計測プログラムを入れた。
 - ▶ サンプリング周期は、早すぎると MPU が対応できないため、内部 Delay を入れて調節した
- ✓ Madgwick Filter へのサンプリング周期の受渡(Madgwick.c の一部改変含む)プログラムを入れた。
 - サンプリング周期の値は、実際の姿勢の検出周期+Delayであり、その値を受け渡した (←少し手抜きをしている)
 - ▶ サンプリング周期の値は Madgwick Filter の演算処理で大変重要である
- ✓ 青ボタンによる割込み処理で Gyro のオフセットの補正を行うプログラムを入れた。
 - ➤ Gyro からの角速度の積分値である角度は、安価な Gyro は時間変動(ドリフト)が大きい。例えば MPU6050 では、時間あたり 2 桁程の角度(Degree)変化した。このため青ボタンを押すと、割込み処理により Gyro のオフセットの補正を行うプログラムを入れた
- ✓ 描画ソフト processing へのデータ出力を行うプログラムを入れた。
- ✓ Processing のプログラムは自作した。なお Madgwick Filter から出力されるオイラー角は特異 姿勢が存在するようだ。Quaternion をそのまま利用する方が良いか?(後の姿勢検出では Quaternion を利用した)

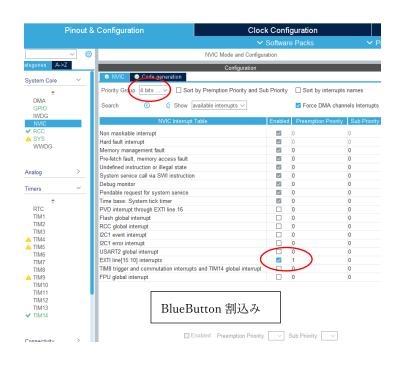
後記:プログラムの作成後、数週間経過するとプログラムの詳細が分からなくなった。年齢のためか(現在71歳)、いや昔からそうだった記憶がある。このため以下のプログラムに対する問い合わせは回答出来ません。あしからず。

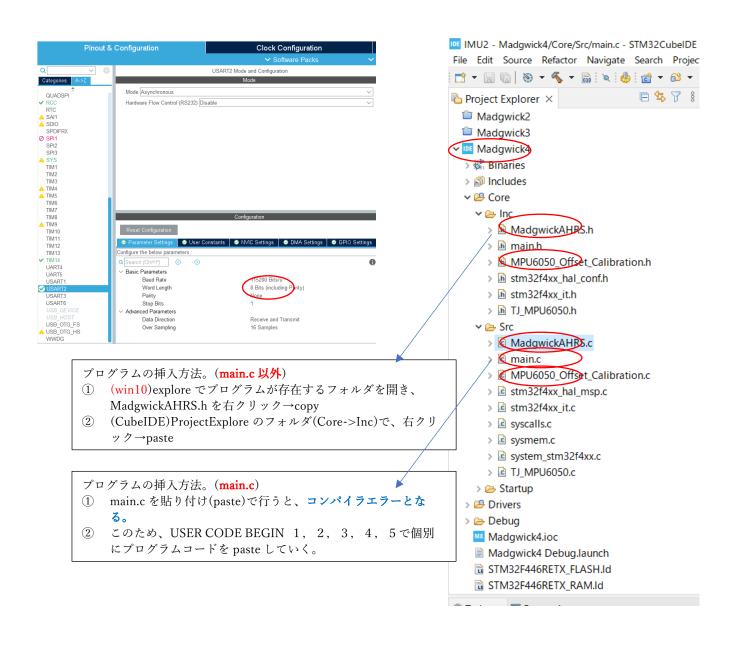
(ファイルの場所: D:\footnote{\text{Shimo}}\text{Documents}\text{STM32workspace}\text{YIMU2}\text{Madgwick4})

■STM32 NUCLEO F446RE で動作、開発は STM32 CUBE IDE を利用









■プログラムを作る

- ① MPU6050_offset_Calibration.h
- ② MPU6050_offset_Calibration.c
- ③ Madgwick.h 一部改変(①のため)
- ④ Madgwick.c 一部改変(①のため)
- (5) main.c

(1) MPU6050_offset_Calibration.h

maic.c から Call

ポインタ引数

```
// header file
void MPU6050_Offset_Calibration(int *Ax_bias, int *Ay_bias, int *Az_bias, int *Gx_bias, int *Gy_bias, int
*Gz_bias );
//
```

(2) MPU6050_offset_Calibration.c

```
拙いプログラムのため、ただの参考にしてください。間違いが多くあります。
                                                                                                                                                                                         printf を使う時に入れた
  /Header files
#include <stdio.h>
#include "MPU6050_Offset_Calibration.h"
#include "TJ_MPU6050.h"
                                                                                                                                                                               10回程度計測しその平均をとる
#define Cal_num 10 //オフセットを校正するための計測回数
                                                                                                                                                                            ポインタを使い値の入出力を行う
   Offset Caliburation
 void MPU6050_Offset_Calibration(int *Ax_bias, int *Ay_bias, int *Az_bias, int *Gx_bias, int *Gy_bias, int *Gz_bias)
           RawData_Def myAccelRaw, myGyroRaw; // add
                                                                                                                                                                            必要、include "TJ_MPU6050.h"も必要
                                                                                                                                                                                 これに気付くのに時間がかかった!
       int Ax,Ay,Az;//Raw data
       int Gx,Gy,Gz;//Raw data
        int Ax_av, Ay_av, Az_av=0;
                                                                               ローカル変数とした
       int Gx_av, Gy_av, Gz_av=0;
       int i=0;
                                                                                              大意無し
        Ax_av=0; Ay_av=0; Az_av=0;
       Gx_av=0; Gy_av=0; Gz_av=0;
                                                                                                                                                   データ構造を構築する情報が必要ですよね
    Get initial measure data
       while (i < Cal_num)
               MPU6050_Get_Accel_RawData(&myAccelRaw);//この命令で加速度とジャイロを取得
               MPU6050_Get_Gyro_RawData(&myGyroRaw);//上の命令で取得したデータを渡すだけ
               Ax=myAccelRaw.x-*Ax_bias; Ay=myAccelRaw.y-*Ay_bias; Az=myAccelRaw.z-*Az_bias;
               Gx = myGyroRaw.x - *Gx\_bias; \ Gy = myGyroRaw.y - *Gy\_bias; \ Gz = myGyroRaw.z - *Gz\_bias;
             Ax_av+=Ax; Ay_av+=Ay; Az_av+=Az;
                                                                                                                                                                                                                            平均をとる
            Gx_av+=Gx; Gy_av+=Gy; Gz_av+=Gz;
            HAL_Delay(10); //delay 10ms
        Ax_av=(float)Ax_av/Cal_num; Ay_av=(float)Ay_av/Cal_num; Az_av=(float)Az_av/Cal_num;
       Gx\_av = (float)Gx\_av/Cal\_num; Gy\_av = (float)Gy\_av/Cal\_num; Gz\_av = (float)Gz\_av/Cal\_num; Gv\_av = (float)Gv\_av/Cal\_num; Gv\_av/Cal\_num; Gv\_a
          / calculate average of offset value & Correct for GyroData only
```

// *Ax_bias+=(float)Ax_av; *Ay_bias+=(float)Ay_av; *Az_bias+=(float)Az_av, *Gx_bias+=(float)Gx_av; *Gy_bias+=(float)Gy_av; *Gz_bias+=(float)Gz_av;

なぜ、ジャイロ角速度のみオフセットの校正値を戻すのか?

- ① MPU6050 で姿勢検出を行ったところ、時間経過に従って姿勢がずれていく。例えば、z 軸を上面としたとき、z 軸周りの姿勢回転が増加する現象が観測された。これは z 軸周りの角速度のオフセットがあると、z 軸周りの回転があることになり、その積分として z 軸周りの回転が発生することになる。このため、ジャイロからの角速度出力オフセットは出来る限りゼロとすべきである。
- ② 翻って、加速度成分の姿勢変動の寄与は少ない。加速度成分は、重力が方向を検出することで姿勢を検出する。この場合、軸方向成分では重力場方向の値が大きい。また姿勢推定アルゴリズムでは、加速度の X,Y,Z の相対的関係より姿勢を検出(正規化して利用する)しているため、温度などの一様なドリフトの影響は少なくなる。
- ③ Blue-Buttonを押し、Flagを割込みにより設定して、MPU6050_offset_Calibrationを行うようにしている。これはあくまでもジャイロ角速度のオフセット値の変更であり、ボタンを押した姿勢をオリジナルの姿勢とする分けではない。

(3) Madgwick.h 一部改变

(4) Madgwick.c 一部改変

```
// Variable definitions

volatile float beta = betaDef; // 2 * proportional gain (Kp)
volatile float q0 = 1.0f, q1 = 0.0f, q2 = 0.0f, q3 = 0.0f; // quaternion of sensor frame relative to auxiliary frame

volatile float sampleFreq = 100.0f; // sampling frequency shimojo ???

必要か不明
```

その逆数の Δt がフィルタアルゴリズムで利用される。 Δt は積分として扱われるので、その値の大きさが、結果の大きさに反映される。すなわち Δt が 2 倍になれは、フィルタ出力(quaternion)も 2 倍になる。

```
// Fast inverse square-root
// See: http://en.wikipedia.org/wiki/Fast_inverse_square_root

float invSqrt(float x) {
    float halfx = 0.5f * x;
    float y = x;
    long i = *(long*)&y;
    i = 0x5f3759df - (i>>1);
    y = *(float*)&i;
    y = y * (1.5f - (halfx * y * y));//1st iteration shimojo
    y = y * (1.5f - (halfx * y * y));//2nd iteration shimojo
    return y;
}
```

inverse square root の近似式。2nd iteration まで記入した。これは無視可能とのこと(実行しなくてもよい)

(5) main.c

(1)CODE BEGIN Includes

```
不要
#include "TJ_MPU6050.h"
#include "MadgwickAHRS.h"
                                                 新たに挿入
#include "MPU6050_Offset_Calibration.h"
#include "math.h'
 * USER CODE END Includes */
  USER CODE BEGIN 0 */
const float PI=3.14159265358979;
extern volatile float beta; // add extern
extern volatile float q0, q1, q2, q3; // add extern
                                               グローバル変数とした
uint8_t data[5];
float Yaw_m,Pitch_m,Roll_m;
uint16_t timer_val; // timer start value
                                              CPU 処理経過時間計測用
uint16_t timer_val2; // sampling period
* USER CODE END 0 */
```

2USER CODE BEGIN 1

```
int main(void)
{
    /* USER CODE BEGIN 1 */
    MPU_ConfigTypeDef myMpuConfig; // ジャイロセンサの特性を決めるパラメータを set
    /* USER CODE END 1 */
```

3USER CODE BEGIN 2

```
/* USER CODE BEGIN 2 */

RawData_Def myAccelRaw, myGyroRaw; // add データ構造。今回生データを基に自前で処理
//ScaledData_Def myAccelScaled, myGyroScaled; // add

//printf("Gyro Start Madgwick3 ¥r¥n");

スケーリングは、自前でおこなうので不要
```

```
int Ax, Ay, Az; // Raw data
                                      グローバル変数とした。ただ、MPU6050_offset_Calibration.c ではロ
  int Gx,Gy,Gz;//Raw data
  float Axf,Ayf,Azf;//Scaled data
                                      ーカル変数としてますね。不統一ですね。また extern が無い、上の記
  float Gxf,Gyf,Gzf;//Scaled data
                                      述と相違。extern は必要/不要??
  int Ax_bias,Ay_bias,Az_bias;//bias
  int Gx_bias,Gy_bias,Gz_bias;//bias
                                                                 キャリブレーションは事前に行った。これは重要
  Ax_bias=671;Ay_bias=-150;Az_bias=1099; // measured data by experiment by s
                                                                     加速度は、x,y,z 軸を各々重力場方向と正逆
配置して中間点をゼロとした
                                                                 (1)
  Gx_bias=-193;Gy_bias=86;Gz_bias=-50;// measured data by experiment by shime
  float AccelMetricScaling;
                                                                     角速度は、静止状態で測定、オフセットを
                                                                     求めた
  AccelMetricScaling=(2000.0f/32768.0f); //2000.0f for AFS_SEL_2g
                                                                     LowPass フィルタ、感度設定で値が若干変
                                                                     わる
  float GyroMetricScaling;
                                            1/250 Of for FS SEL 250
  GyroMetricScaling= (250.0f/32768.0f)*(PI/180.0f);
                                                                          角速度は radian/s とする
          不要、コンパイラオプション
#if 1
                                                       サンプリング周期の MadgwickFilter への通知は本質的に必要。
                                                       オリジナルでは Madgwick.c 内の#define で指定している。これ
                                                       は面倒くさいので、プログラムを下条が改変した。
   * CPU processing time=5ms, delay=15ms
  MadgwickSetSampling(66.7f); // Setsampling Frequency (Added by shimojo)
#endif
                                                               サンプリング周期を Magdwick へ渡す
   // Start timer
   HAL_TIM_Base_Start(&htim14); /--
                                                                CPU 処理計測用タイマを enable
  //1. initialize the MPU6050 module and i2c
    MPU6050_Init(&hi2c1);
                                                                 MPU6050 の各種設定を行う。ローパスフ
    myMpuConfig.Accel_Full_Scale=AFS_SEL_2g ;
                                                                 ィルタは、ノイズと遅延時間のトレードオ
    myMpuConfig.ClockSource = Internal_8MHz;
    //myMpuConfig.CONFIG_DLPF = DLPF_21A_20G_Hz;// Delay 8.5ms
                                                                 フ。感度も同様。
    myMpuConfig.CONFIG_DLPF = DLPF_184A_188G_Hz;// Delay 2.0ms
    myMpuConfig.Gyro_Full_Scale =FS_SEL_250;
    myMpuConfig.Sleep_Mode_Bit = 0; //1: sleep mode, 0: normal mode
    MPU6050_Config(&myMpuConfig);
                                                                         オフセット値は事前に計測した。特に加速
                                                                         度センサは、x、y、z 各軸に対して重力場を
    Ax_bias=671;Ay_bias=-150;Az_bias=1099; // measured data by experiment by shimojo
    Gx_bias=-193;Gy_bias=86;Gz_bias=-50;// measured data by experiment by shimojo
                                                                         反転させ、計測し、中立点を設定した。あ
                                                                         と温度変動は行っていない。必要かも??
    //Here the gravity unit. Since acceleration is normalized. (shimojo)
    AccelMetricScaling=(2000.0f/32768.0f); //2000.0f for AFS_SEL_2g
                                                                      ジャイロの角速度はラジアン/秒とする。
    GyroMetricScaling= (250.0f/32768.0f)*(PI/180.0f); //250.0f for FS_SEL_500
                                                                      加速度は、正規化し相対的な値として利用
                                                                      するので単位は問わない。
```

4 USER CODE BEGIN 3

/* USER CODE END 2 */

```
/* USER CODE BEGIN WHILE */
while (1)
{
    /* USER CODE END WHILE */
```

"&"

アドレスを渡す

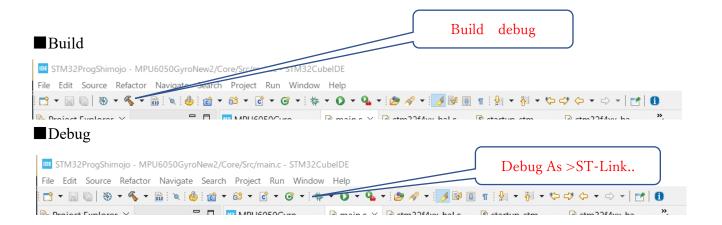
MPU6050_Offset_Calibration(&Ax_bias, &Ay_bias, &Az_bias, &Gx_bias, &Gy_bias, &Gz_bias);

```
/* USER CODE BEGIN 3 */
   //if (Cal_num==1) { printf("% u us\fyr\fyr",timer_val2);Cal_num=0; }
                                                                                                                                                                  CPU 処理計測 Start!
    timer_val = __HAL_TIM_GET_COUNTER(&htim14);//Start timer_
            MPU6050_Get_Accel_RawData(&myAccelRaw);//この命令で加速度とジャイロを取得
             MPU6050_Get_Gyro_RawData(&myGyroRaw);//上の命令で取得したデータを渡すだけ
             Ax=myAccelRaw.x-Ax_bias; Ay=myAccelRaw.y-Ay_bias; Az=myAccelRaw.z-Az_bias;
             Gx=myGyroRaw.x-Gx_bias; Gy=myGyroRaw.y-Gy_bias; Gz=myGyroRaw.z-Gz_bias;
             Axf=(float)Ax*(AccelMetricScaling);Ayf=(float)Ay*(AccelMetricScaling);Azf=(float)Az*(AccelMetricScaling);// gravity unit
            Gxf = (float)Gx*(GyroMetricScaling); Gyf = (float)Gy*(GyroMetricScaling); Gzf = (float)Gz*(GyroMetricScaling); // radian/station for the first of 
                                                                                                                                          STM32CubeIDE の printf で%f は不可!
             /*STM32CubeIDE の printf で float が使えない、対処方法 */
                                                                                                                                                     プロジェクトを右 click, properties,
                                                                                                                                                    C/C++ Build→Settings→MCU Settings,
                プロジェクトを右 click, properties,
                                                                                                                                          (3)
                                                                                                                                                    Use float with printf from newlib-nano (-u _printf_float)
                                                                                                                                                     に check
               Use float with printf from newlib-nano (-u_printf_float) \( \subseteq \text{check} \)
                                                                                                                                                                                 Madgwick Filter
             //Madgwick Filter. Sampling frequency must be set in MadgwickAHRS.c (shimojo)}-
                   MadgwickAHRSupdateIMU(Gxf,Gyf,Gzf,Axf,Ayf,Azf);
                                                                                                                                                          ジャイロの角速度はラジアン/秒とする
         HAL_Delay(10); //delay 5ms
                                                                                                                                                            サンプリング周期を決める遅延 (重要)
         Roll_m = (180.0f / PI)*atan2f(q0*q1 + q2*q3, 0.5f - q1*q1 - q2*q2);
                                                                                                                                                             遅延 0 だと Madgwick Filter の値が??
         Pitch_m = (180.0f / PI)*asinf(-2.0f * (q1*q3 - q0*q2));
          Yaw_m=(180.0f/PI)*atan2f(q1*q2+q0*q3, 0.5f-q2*q2-q3*q3);
#if 1
                                                                                                                                           Ouaternion から Roll, Pitch, Yaw への変換
         printf ("%f",Roll_m); printf (",");//
                                                                                                                                           特異姿勢が存在するようだ。
      printf ("%f",Pitch_m); printf (",");//
                                                                                                                                           Quaternion をそのまま利用する方が良いか?
         printf ("%f",Yaw_m); printf (" \forall r\forall n");//
          timer_val2 = __HAL_TIM_GET_COUNTER(&htim14) - timer_val;
#endif
                                                                                                                                            CPU 処理計測
                                                                                                                                                                              ここまでの経過時間
#if 0
             //MPU6050 measurd data quaternion
            printf ("%f",q0); printf (",");//
printf ("%f",q1); printf (",");//
printf ("%f",q2); printf (",");//
printf ("%f",q3); printf (" ¥r¥n");//
                                                                                                            Quaternion 出力。processing のための format
#endif
                        コンパイラする/しないを指示
#if 0 -
                                                                                                                                               測定值出力
            printf ("%f",Ayf); printf (",");//
printf ("%f",Azf); printf (",");//
 #endif
  /* USER CODE END 3 */
```

5 USER CODE BEGIN 4

以上は基本設定終了

■以下は付録



■測定データは、Debug mode で表示可能。

Debug>debug configuration>デバッガ>特定の ST-Link..をチェック。探すをクリックシリアルワイヤビューアを有効、Core Clock 84.0(自身の設定値)Debug

○デバックモードに入る

コマンドラインの LiveExpression をクリック、myAccelScaled (例えば) を追加 Resume をクリックすると、myAccelScaled.x、myAccelScaled.y、myAccelScaled.z が出力される。



■TeraTerm 起動しているデータ出力

■描画プログラム processing でグラフを描く

https://processing.org/

```
● MPU6050GyroNew2 の main.c に出力コードを入れる。

printf ("%f",myAccelScaled.x); printf (",");//
printf ("%f",myAccelScaled.y); printf (","); //
printf ("%f",myAccelScaled.z); printf (","); //
printf ("%f",myGyroScaled.x); printf (","); //
printf ("%f",myGyroScaled.y); printf (","); //
printf ("%f",myGyroScaled.z); printf (" ¥r¥n"); //

//HAL_GPIO_TogglePin(GPIOA, GPIO_PIN_5); // Green LED Blink
HAL_Delay(100); //delay 10ms

● processing のプログラム。一部パラメータを変えた

https://shizenkarasuzon.hatenablog.com/entry/2019/02/16/163954
```

https://shizenkarasuzon.hatenablog.com/entry/2019/02/16/163954 TeraTerm で COM4 の共存は不可。TeraTerm を終了する

```
import processing.serial.*;

static final int GYRO = 1;
static final int ACCEL = 2;
static final int MAG = 3;
static final int ROTATION = 4;

Serial myPort;

float gx, gy, gz;
float ax, ay, az;

graphMonitor GyroGraph;
graphMonitor AccelGraph;
graphMonitor MagGraph;
graphMonitor RotateGraph;
```

```
void setup(){
  size(1200, 800);
 myPort = new Serial(this, "COM4", 115200);
 //「COM4」とは、Arduino が接続されている COM ポート番号をさします。
// エラーが出る場合は、デバイスマネージャ等から Arduino の COM ポート番号を調べて
書き換えてください。
 frameRate(30);
  smooth();
 myPort.bufferUntil('\u00e4n');
 GyroGraph = new graphMonitor("gyro_Rawdata", 100, 100,
250);
  AccelGraph = new graphMonitor("accel_Rawdata", 100, 400, 900, 250);
}
void draw(){
 background(0);
 //text(str(gx),100,100);
 GyroGraph.graphDraw(gx, gy, gz);
 AccelGraph.graphDraw(ax, ay, az);
void serialEvent(Serial myPort){
  String myString = myPort.readStringUntil('\u00e4n');
  if (myString != null) {
   myString = trim(myString);
   float sensors[] = float(split(myString, ','));
   if (sensors.length > 5) {
       ax = sensors[0];
       ay = sensors[1];
       az = sensors[2];
       gx = sensors[3];
       gy = sensors[4];
       gz = sensors[5];
   }
  }
class graphMonitor {
   String TITLE;
```

```
int X POSITION, Y POSITION;
   int X_LENGTH, Y_LENGTH;
  float [] y1, y2, y3;
   float maxRange;
   graphMonitor(String _TITLE, int _X_POSITION, int _Y_POSITION, int
X LENGTH, int Y LENGTH) {
    TITLE = TITLE;
    X POSITION = X POSITION;
    Y_POSITION = _Y_POSITION;
    X LENGTH = X LENGTH;
    Y LENGTH = Y LENGTH;
    y1 = new float[X LENGTH];
    y2 = new float[X LENGTH];
    y3 = new float[X_LENGTH];
    for (int i = 0; i < X LENGTH; i++) {
      y1[i] = 0;
      y2[i] = 0;
      y3[i] = 0;
   }
  void graphDraw(float _y1, float _y2, float _y3) {
    y1[X_LENGTH - 1] = _y1;
    y2[X LENGTH - 1] = y2;
    y3[X LENGTH - 1] = y3;
    for (int i = 0; i < X LENGTH - 1; i++) {
      y1[i] = y1[i + 1];
      y2[i] = y2[i + 1];
      y3[i] = y3[i + 1];
    maxRange = 1;
    for (int i = 0; i < X_LENGTH - 1; i++) {
      maxRange = (abs(y1[i]) > maxRange ? abs(y1[i]) : maxRange);
      maxRange = (abs(y2[i]) > maxRange ? abs(y2[i]) : maxRange);
      maxRange = (abs(y3[i]) > maxRange ? abs(y3[i]) : maxRange);
     }
    pushMatrix();
    translate(X_POSITION, Y_POSITION);
    fill(240);
     stroke(130);
```

```
strokeWeight(1);
     rect(0, 0, X_LENGTH, Y_LENGTH);
     line(0, Y_LENGTH / 2, X_LENGTH, Y_LENGTH / 2);
     textSize(25);
     fill(255);
     textAlign(LEFT, BOTTOM);
     text(TITLE, 20, -5);
     textSize(22);
     textAlign(RIGHT);
     text(0, -5, Y LENGTH / 2 + 7);
     text(nf(maxRange, 0, 1), -5, 18);
     text(nf(-1 * maxRange, 0, 1), -5, Y LENGTH);
     translate(0, Y LENGTH / 2);
     scale(1, -1);
     strokeWeight(1);
     for (int i = 0; i < X LENGTH - 1; i++) {
       stroke(255, 0, 0);
       line(i, y1[i] * (Y_LENGTH / 2) / maxRange, i + 1, y1[i + 1] *
(Y LENGTH / 2) / maxRange);
       stroke(255, 0, 255);
       line(i, y2[i] * (Y_LENGTH / 2) / maxRange, i + 1, y2[i + 1] *
(Y LENGTH / 2) / maxRange);
       stroke(0, 0, 0);
       line(i, y3[i] * (Y_LENGTH / 2) / maxRange, i + 1, y3[i + 1] *
(Y LENGTH / 2) / maxRange);
     }
     popMatrix();
```

以上描画プログラム